

## <考察：フライングギャフ幻想>

**フライングギャフは片手では<一人では>操作できません。**「何とかなる」と漠然と思っている人は、実際にはやった事が無い人だと思いますので、肝心な事ですから、シミュレーションをやってみたらいいです。テーブルの上に立つとか、外の階段の所でやるとか。ギャフ掛け対象物は、何か重みのある物に段ボールか梱包資材を、ガムテープで巻きつけければいいです。片手で竿を握り、もう一方の手だけで、1) ロープ付長柄の振り出し、2) 回らないよう柄のロック、3) 掛ける前にギャフが外れる事なく対象物へのギャフ掛け、4) 掛けた後の柄の切り離し、5) 切り離した柄の回収、が出来るかどうか。スタンディングからの単独ギャフ掛けは、片手は竿を支えている訳で、残りの片手だけで此の作業をやらなければなりません。これはクロ釣りではありませんから、両膝をくっ付けて、股の間に何かを挟む事はできません(踏ん張りが効かず、大物の力に耐える事不能)。操作対象物は三点在ります。竿と柄とロープです。そして、魚が糸を引き出せば、もう一点(リールハンドル)増えて四点になります。竿を支えるのに手がフルに一本必要ですから、残りの片手で最大三点を操作しなければなりません。余程の幸運に恵まれない限り、事実上不可能という事が分かる筈です。フライングギャフは両手を使う事を前提として考えられているシステムです。ギャフ掛け専任者が、両手でロープごと柄を握り、ギャフを掛け、掛けた後はロープの固定を解き、柄を引き抜き、二人でロープを引く。フライングギャフを一人で使えるケースは置き竿ファイト(=アラ釣り仕様)のみです。

此のフライングギャフをスタンディングで、一人で使うとなると、何重もの高いハードルが存在します。上記1)と2)は事前に柄を伸ばしてロックしておけばよい、と考えるでしょう。3)とも関係しますが、ギャフの軸端をアダプターに挿入するやり方が知られています。此の挿入、切り離しがメカ的にしっかりしたやり方でない為、ギャフが意図に反して外れてしまわないようにするには、柄を伸ばしてロックした上に、ロープを張って、柄尻近くに、固定しておく必要があります。そして此の固定は4)で柄の切り離しをしなければならない為、デリケートな固定になっており(フライング=切り離ししないのなら、しっかり固定でき、そうすれば手の中をスライドさせ、落とす事もできるが・・・これだと一人の場合フライングギャフにはならない→手一本でしっかり結んだロープ解除は不能)、此れにより、ギャフ掛け時には、ロープ固定部(=柄尻)を握り、振り下ろす必要が生じます(→長さ5mでは不可能)。柄長5mで20~30kgの魚を取り込むとしますと、柄は700g以上はあり、SUS304ギャフでは12mm径必要で、シングルでも200g(アダプター入れて350g)は越えており、ロープは10mm径で、6mで400g弱となり、ギャフセットは少なくとも1.4kgを越えています。重量1.4kg以上長さ5mのギャフセットの端を握って、片手で振り回さなければならなくなり、これは空中でも無理—不可能です(ましてや先端が水の抵抗を受けては)。

3)は既に述べましたが、インロー(ギャフ軸端)のアダプターへの挿入固定、解除のメカニズムがしっかりしたものになっていない訳です(切り離し操作前の離脱を確実に防止し、且つ切り離し操作時の離脱を保証する仕組みは現時点で存在しない)。其れを大暴れしている魚に片手で掛けに行く訳で、上手く刺さらないままギャフが外れてしまったら、其れでアウトという事であり、結果は運に委ねられます。

4)は3)と関係しますが、上記の事態が発生しないようにするには、ギャフのロープをしっかり張って柄尻に固定する必要があります、という事は既にのべました。掛けた後の柄の切り離しをするには、先ず、此の柄尻に固定したロープの解除を、魚(=柄)がバタン、バタンしている状況で、行わなければなりません。此れは難易度が高い。ロープを解く為には柄から手を離せば、ロープが解けたと同時に柄は水面にバタンと落ちる訳ですから。何しろ、魚が大きい以上、力が必要で、足は踏ん張らなければならず、両膝をくっ付けて股に何かを挟む、という事はできない訳です。ロープの固定が解除出来て初めて、柄の切り離し(=フライング)になります。

此処で柄の切り離しと切り離した柄の回収ということですが、もう一つ厄介な問題が存在する事がはっきりします。竿の存在です。ロープを引き上げるには手が必ず二本必要です(ロープを引くのに手一本、引きつけたロープを保持するのにもう一本)。此処で竿が体の近くに在ったら、邪魔になり、その状態で引上げを開始すれば、竿先が柔らかく長い場合(石鯛竿が此れに相当)、ドタバタで最悪竿先を折る事となります。股は閉じられません(クロ釣りとは違います)。要するに引上げ時には竿は横に置かれていなければならず、横に置く為にはリールのドラッグを解放しなければなりません。どうやって解放するのですか? 竿が長く重い場合、此れも大きな問題になってきます。

この方式では、これらの高いハードルを全てクリアして初めて、ランディングの目的が達成される訳で、どれか一つでも躓けば、単独取り込みでは、やり直しはきかず、其れでジ・エンドとなります。厳密シミュレーションを実施すれば、「**フライングギャフでの単独片手取り込みは、余程の幸運に恵まれない限り、事実上不可能**」という事が分かる筈です。フライングギャフを持っていれば、大物が掛かった場合でも一人で「何とかなる」という根拠のない（具体的プロセスを持たない）感覚を抱いている人は、両手の動きを正確に確認しながらの厳密シミュレーションの実施で、其れが幻想に過ぎない事を知りましょう。シミュレーションで静止物相手にやれない事が、本番で動いている相手に、足場も悪い状況でやれる訳ないでしょう。高場からの大物単独取り込みは高度な技術であり、其れを実行しようとする人はこういう話が理解できなければなりません。

単独スタンディングファイトに於ける長柄ギャフは、次の三点の考え方を採用すれば、有益となります。A) 4 m以上の柄の使用を断念、B) 15 kg以上の魚の取り込みを断念、C) フライング（切り離し）を断念。5 mの柄を一人で（=片手で）振り回す事は無理なので、柄長を4 m以下にすれば、ギャフとロープの重量次第では使えます。軸径7~8 mmのSUS304製ギャフに5~6 mmのロープを取り付けて、これで30 kgもOK、と思っている人が多い。SUS304ギャフは強度が弱く、更に針先が長く、外側を向いた構造の同ギャフは、力の分力が、針先を押し開く方向に作用する為、強度上不利であり、フトコロが10 cmあったとして、7 mm径では15~6 kgの荷重に耐えられない、6 mm径では10 kg以下の荷重に耐えられない可能性あり。SUS304で30 kg級の魚を取り込むには12 mm径以上必要で、ロープは10 mm径必要で、4 mでも片手で振り回すのは厳しい。フライング（切り離し）しようとする、片手操作では厄介な問題が発生するので、諦めて、ねじ込み式固定にするのがよい。ロープは其れで引き上げるのではなく、柄が壊れるのを補佐的に防ぐ目的で、柄とロープを一緒に握って上げる使い方をし、其れにより、細めでもOK。以上により、軽量化が図られ、実用可能です。即ち、フライングギャフとしてではなく、固定ギャフとして5 kg~10 kg強の中型魚の足場3 m（柄長4 m）以内の使用に特化した使い方が現実的です。実際このやり方で多くの人が利用しています。

**本特許ギャフ掛け法は、高場からの大物単独取り込みを可能にする世界で唯一の方法です。**本ギャフ掛け法では、ガイドを介してギャフを竿そして道糸伝いに落とします。落とし込んだギャフは魚の首の周りに引っ掛かり、その状態で魚は暴れる事となります。其のギャフを上（正確に言えば斜め上）から、ロープで引っ張ったり、緩めたりする訳ですから、掛かるのは確実であり、時間の長短の問題に過ぎません。正確に言えば、ロープは斜め上に引っ張る訳ですから、ギャフが向こう側に位置し、魚が手前側に位置している時、ギャフが引かれれば掛かる事となりますが、魚は常に動いており、魚の動きに合わせて操作して掛ける必要はありません。暴れる魚は、ギャフと魚との相対位置関係がどうにでもなる為、勝手に掛かります（超簡単）。暴れない魚は、竿を横に傾けて、横並びの状態を作る事により、掛けやすくできます。暴れない、と言えども、魚は必ず動いており、横並びを作れば「魚体が手前でギャフが向こう」の状態が必ずできますから、掛かります。

本ギャフ掛け方法では、操作対象物は竿及びロープの2点のみ（⇔従来法は竿、柄、及びロープの三点）であり、片手で竿を支え、もう一方の手でロープを握るだけになります。そして魚が糸を引き出した場合は、操作対象物はもう一点（リールハンドル）増えて三点となりますが、ロープを握ったその手でハンドルを回す事は自在に出来ます（⇔従来法で魚が糸を引き出せば、操作対象物は、竿、柄、ロープ、ハンドルの4点となり、片手は竿にフルに必要な為、残りの片手で柄、ロープ、ハンドルの三点を操作する必要が生じ、**柄を握ったその手でハンドルを回す事は完全不可能**）。そしてこの所が大きな違いなのですが、本ギャフ掛け法では、魚は片手で支えた竿がコントロールしており、首の回りに引っ掛かっているギャフをもう一方の手で握ったロープで引いたり、緩めたりする訳ですから、ロープを掴んだ手には、フッキングする迄、力が掛からないのです。此の為、安定した姿勢を維持したまま、余裕を持ってギャフ掛けに到達できます（⇔従来法は、ギャフ掛けの局面に於いて、全腕力を傾注しなければならず、片手では腕力は直ぐに尽きる）。柄が届く、届かないという話では無く、柄が届く場合に於いても、単独の場合は、其の容易性という点において、従来長柄法は、本特許ギャフ掛け法の足元にも及ばず、絶対に勝てません。本ギャフ掛け法は、単独取り込みに於いて、魚が大きい程、そして魚が暴れる程、又高距が大きい程、その利点が顕著に出ます。又コスト的にも、丈夫且つ軽量の柄は高い訳ですから、其の柄が要らない訳で、その分安くて済む事になります。

ギャフのフックはルアーのフックの何倍ものフトコロ寸法が有り、ルアーフックより、ずっと掛かり易く、且つ、ギャフは魚と接触した位置関係に置かれ、魚は其れから逃れる術は無く、掛かる迄何度でも攻撃してくる訳ですから、ラインが切れない限り（或いは鉤が外れない限り）、掛からないという結果は存在しないのです。